

Industrial Catalyst News

触媒学会工業触媒研究会

工業触媒研究会は会員の皆様に Industrial Catalyst News を毎月 1 回 Mail 配信します。

レアメタル安定供給へ備蓄増強

経産省は来年度から 31 種類の稀少金属について安定供給に向けた総合対策に着手する。中国の需要増など世界的な需要拡大で国際価格が急騰し、輸入が減り将来供給不足に陥る可能性が高まってきたため、国家備蓄の拡充と廃棄された電子機器から効率良く回収する技術開発などリサイクル制度を整える他、代替金属開発を文科省と連携して立ち上げる。

(日本経済新聞, 9月8日(2006))

光触媒を高性能化

経産省は光触媒技術の新産業分野開拓を目指し、従来製品に比べ紫外光型で 2 倍、室内での利用が可能な可視光型で 10 倍という光触媒機能の高性能化に向けた技術基盤構築、「循環社会構築型光触媒産業創出プロジェクト (NEDO 主体、5 ヶ年計画)」を実施するため 07 年度の概算要求に 12 億円を盛り込んだ。

(日本経済新聞, 9月8日(2006))

新日本石油 重油から石化製品量産

新日本石油は約 500 億円を投資して、国内で重油 (3,000~5,000bbl/d) を分解してプロピレンとガソリンを製造する装置を建設する。電力会社は発電用燃料をガスに転換をしており、昨年度の重油販売量は 10 年前の 7 割弱に留まっている。重油の分解で最も生産比率が高かったガソリンは、国内

需要が 21 年ぶりに減少に転じ、原油高の影響で収益率も低下しているため、国際市場が堅調な石油化学製品を増産した方が収益改善につながると判断した。

(日本経済新聞, 9月10日(2006))

宇部興産 メタロセン触媒 BR の事業化条件は 2 万トン需要確保

宇部興産は PS(ポリスチレン)改質剤向けに市場開拓を進めている「メタロセン触媒による高機能 BR(ブタジエンラバー)」について、年間 2 万トンの需要確保を条件に事業化に踏み切る方針。これまでに世界中の PS メーカーに対するサンプルワークで年間 1 万 5 千トン程度の需要創出にめどをつけており、近い将来の事業化実現を目指す。

(石油化学新報, 7月19日(2006))

世話人

室井高城(エヌ・イーケムキャット)岡田佳巳(千代田化工建設)松久敏雄(ズードケミー触媒)馬場俊秀(東工大院総合理工)浅見幸雄(岩谷瓦斯)阿部伸幸(広栄化学)浜田秀昭(産業技術総合研究所)井上朋也(産業技術総合研究所)藤川貴志(コスモ石油中央研究所)野村琴広(奈良先端科学技術大学院大学)船橋英雄(デグサジャパン)里川重夫(成蹊大学理工学部)増田隆夫(北海道大学)五十嵐哲(工学院大学)常木英昭(日本触媒)

文責：岡田佳巳(千代田化工建設株)